

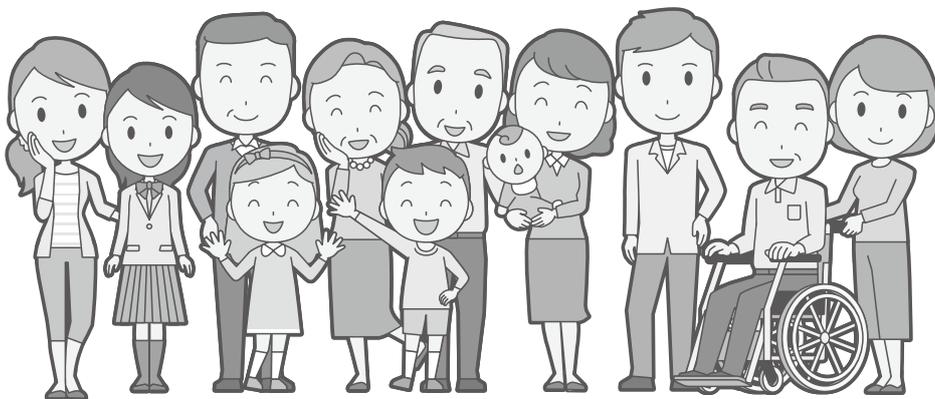
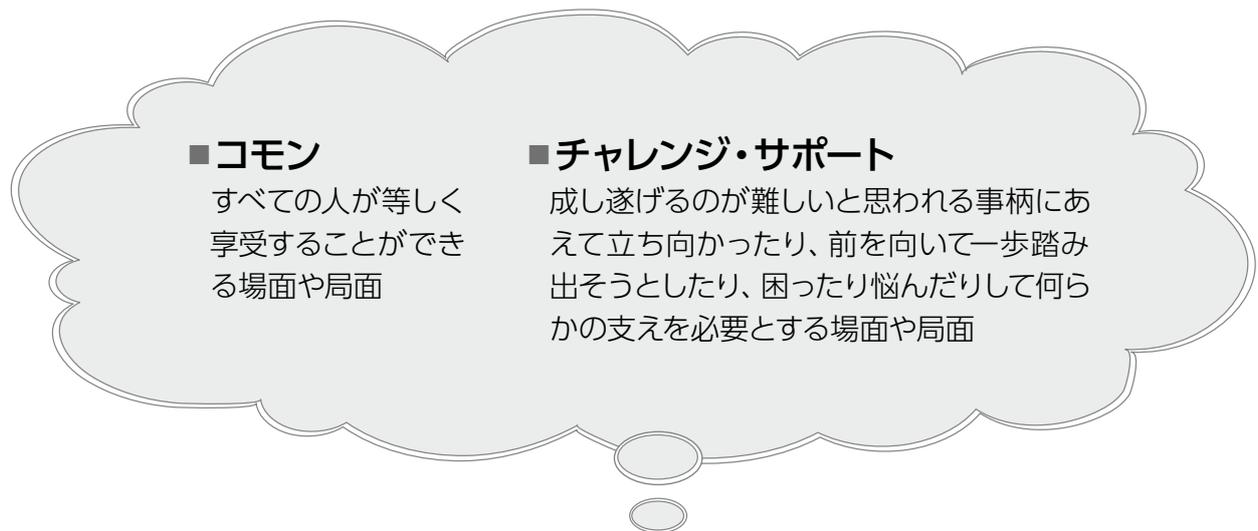
I 取組みの推進にあたって

教育における様々な取組みは、必要とされる場面や局面で適切に実施され効果的に展開されることが必要です。

そのためには、取組みの主体となる者が、取組みを通じてどのような力を相手に身に付けてもらいたいかを考えながら行うことが大切です。

そこで、今期の計画では、教育にかかる取組みが求められる場面や局面を以下の2通りに設定しました。

■ 図表16：コモン・チャレンジ・サポートの説明



(用語の解説)

●コモン：英語のcommonです。「共通の、共有の、広く行きわたった、一般的な」という意味を持ちます。

それぞれの場面や局面が、学校での学び(学校教育)と社会での学び(社会教育)のそれぞれに生じ、様々な取組みが、こうした場面や局面において力をつける多様な機会を保障するものと捉え、以下の4つの基本的方向性に基づき岐阜市の教育を推進します。

■ 図表17：4つの基本的方向性

	基本的方向性	コモン	チャレンジ・サポート
学校での学び ～学校教育～	1. 全ての子どもたちに 将来社会を生きる力を培う教育	○	
	2. 子どもたちの 多様な個性や能力を活かす教育		○
社会での学び ～社会教育～	3. 生涯を通じて学びやスポーツを 楽しむための教育	○	
	4. 生涯を通じて挑戦し、 多様な生き方ができるための教育		○

※この計画の「学校教育」「社会教育」の領域には、その周辺の支援的・福祉的施策を含むものとします。

(用語の解説)

- 社会教育：学校教育、家庭教育以外の社会の中で行われる教育のことです。

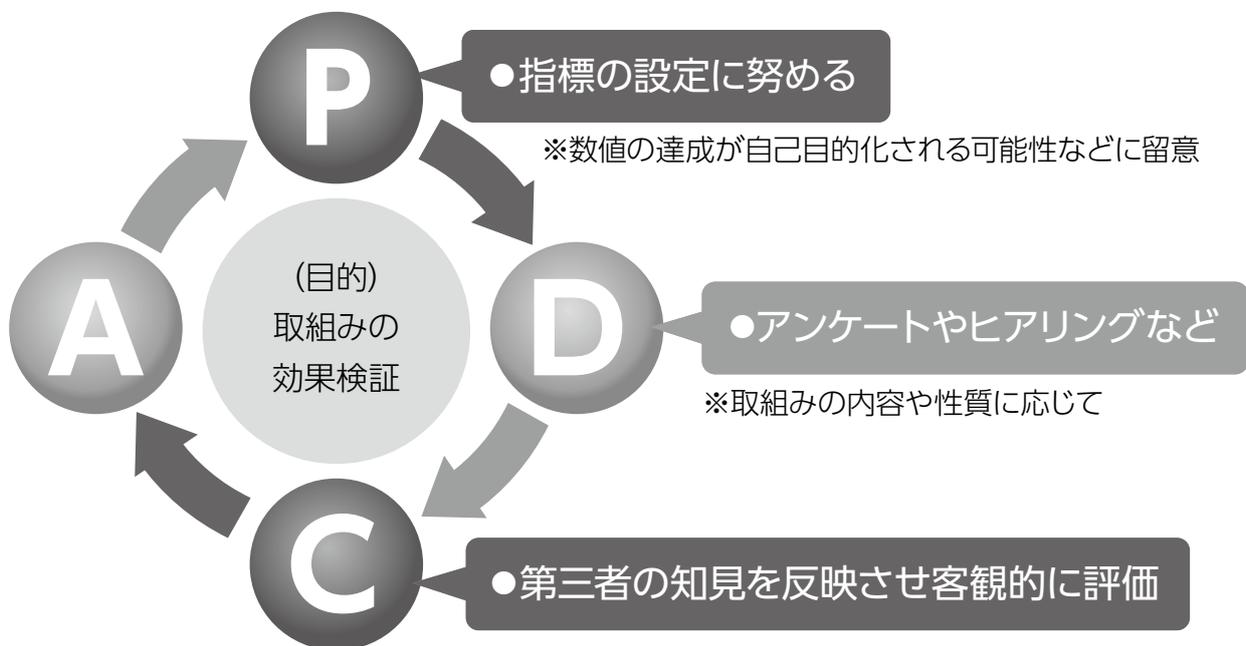
また、取組みの効果検証においては、効果が実証されている手法を活用したり、参考にしよう努めるとともに、PDCAサイクルの考え方にに基づき推進します。

そのための手法の一つとして、目標達成度を直接的又は間接的に測定するための指標の設定に努めます。

一方で、指標が必ずしも目標達成度を測定するものとはならなかったり、数値の達成が自己目的化され、本来の目指すべき状況とかい離したりする可能性に留意し、取組みの内容・性質に応じて、関係者からのアンケートやヒアリングなどに基づく質的評価により、効果検証を図ることも取組みの推進に有意義です。

取組みの評価にあたっては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定による事務の点検及び評価の機会を活用して、第三者の知見を反映させながら客観的に行います。

■ 図表18：取組みの効果検証に向けて



(用語の解説)

- PDCAサイクルの考え方：Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)の4段階を繰り返すことによって、取組みを継続的に改善することです。